

## 2 放課後子どもプランに係る指導者等研修会

指導者等の研修会は、毎年度、福祉部局と合同で放課後子ども教室安全管理員等研修会と放課後子ども教室コーディネーター等研修会を行っています。

指導者等の研修については、独自に進めていただいている市町もあり、県では、今後も市町と連携を図りながら、研修を実施してきたいと考えています（※参考2，3参照）。

### 平成 24 年度 放課後子ども教室安全管理員等研修会

- (1) 趣 旨 放課後児童クラブ指導員及び放課後子ども教室安全管理員等に対して、その活動に必要な知識及び指導技術に関する研修を実施し、指導員等の資質の向上を通して、放課後における児童の健全な育成を図る。
- (2) 主 催 広島県・広島県教育委員会
- (3) 日 時 【東部会場】平成 24 年 7 月 2 日（月）9：30～15：40  
【西部会場】平成 24 年 7 月 6 日（金）9：30～15：40
- (4) 場 所 【東部会場】三原市ゆめきやりあセンター  
【西部会場】広島県国民健康保険会館
- (5) 参加者 100 名（東部 57 名，西部 43 名）
- (6) 研修概要
  - ア 行政説明  
「放課後児童対策について」  
説明者：広島県教育委員会生涯学習課課長補佐(兼)生涯学習支援係長  
坂田 登
  - イ 講義・実技  
演題：「日常的に起こりうるけがや事故への適切な対応法」  
(応急手当・救命措置)  
講師：日本赤十字社広島県支部 救急法指導員・幼児安全法指導員  
梶谷 充（東部会場） 阿部 直美（西部会場）



けがの症状に応じた対応や、心肺蘇生法の手順・方法についての理解を深めることができ、今後の実践に活かせる内容になりました。

## ウ 講義・演習

演題：「居場所とは～育ちゆく子どもたちにとっての意味～」

講師：県立広島大学保健福祉学部人間福祉学科 講師 西村 いづみ



子どもの居場所についての講義及び「子どもがホッと、かつ、いきいきとする場所となるためにできること」というテーマでの演習（「ワールドカフェ」という手法を用いました）を行いました。活発な意見交流を通して、指導員としての基本に立ち返ることができました。

※演習で出た意見を別紙にまとめました。参考にしてください。（P. 67）

## エ 受講者アンケートより

- ・ 何度か心肺蘇生，AED操作講習を受けてきましたが，なかなかスムーズに対応できていないと毎回思います。いざという時に，自ら進んで一歩踏み出す勇気のためにもこれからも受講を望みます。
- ・ 子どもの居場所についての関心がとてもあったので良かったです。最近の子どもたちの居場所をもっと考えてあげなければならないと改めて思いました。
- ・ 生まれた時にすでに子どもの性格なども決まっているのかも知れませんが，親の接し方においてもかなり変わってくるのかと思います。子どもを見抜く目，伸ばしていく目を見つけられたらと思います。

## 平成 24 年度第 1 回放課後子ども教室コーディネーター等研修会

- (1) 趣旨 放課後児童対策の総合的な調整役であるコーディネーター等の資質の向上及びネットワーク化の促進を図るとともに、放課後子ども教室を支援する関係者等の情報交換・情報共有の場とする。
- (2) 主催 広島県教育委員会
- (3) 日時 平成 24 年 11 月 14 日（水）10：00～16：00
- (4) 場所 三原市本郷生涯学習センター
- (5) 参加者 44 名
- (6) 研修概要

### ア 行政説明

「児童の虐待防止の取組及びいじめの問題の取組について」

説明者：広島県教育委員会生涯学習課 社会教育主事 田崎 志緒

「大学生ボランティアチーム『ワクワク学び隊』の派遣について」

説明者：広島県立生涯学習センター 社会教育主事 小早川 かおり

### イ 事例発表・意見交流

「自治振興区による放課後子ども教室の取組

～地域の子どもは地域で守り、地域で育てる」

発表者：庄原市山内自治振興区 事務局長 実安 裕美

庄原市山内自治振興区 子ども教室指導員 安好 芳子



地域と連携し、地域の特色をいかした様々な取組を詳しく発表していただきました。発表後は、運営体制や季節を活かした取組について、活発に意見交流が行われました。

### ウ 講義・ワークショップ

「子どもの学びや成長につながる体験活動プログラム」

講師：まなび工房 代表 堀江 清二



最初に「人間知恵の輪」を体験しました。活動のねらいが変わると、方法も変わるということを感じました。



その後、体験活動プログラムの企画についての講義を行いました。子どもたちの実態や自分たちにできることを分析し、目的と目標を明確にすることが大切であることなど、体験活動の基礎を学ぶことができました。

## エ 教室視察（三原市本郷放課後子ども教室）・意見交流

視察教室：ほんごう放課後子ども教室

説明者：ほんごう放課後子ども教室 コーディネーター 齋尾 敏子



「始まりの会」の様子を視察しました。6年生による進行で行います。低学年がきちんと話を聞けるように、6年生が「しずかに」などと書いた画用紙を提示するなど、工夫をしていました。6年生がリーダーとして成長していることが感じられ、今後の実践の参考になりました。

## オ 受講者アンケートより

- ・ 活動を企画するときには、しっかり軸を作って、目的・目標を明確にしようと思いました。
- ・ 各地域でがんばっておられる方に会えて、刺激になりました。教室を少しでもよりよい方向へ進めていけたらと思います。
- ・ 地域人材のいかし方、子どもたちとの関わり方等、たくさん学ぶことができました。
- ・ 子どもの学びや成長につながる体験活動を仕組むこと、組織としての協力体制づくりや円滑な教室運営を行っていくこと、スタッフと密な連携をとることに役立てていきたい。

- (1) 趣旨 放課後児童対策の総合的な調整役であるコーディネーター等の資質の向上及びネットワーク化の促進を図るとともに、放課後子ども教室を支援する関係者等の情報交換・情報共有の場とする。

また、「ワクワク学び隊」実践交流会に参加し、大学生の活動状況や思い、悩み等を聞いたり、意見交流したりすることにより、放課後子ども教室の活動内容の充実・活性化を図る。

- (2) 主催 広島県教育委員会  
(3) 日時 平成 25 年 2 月 27 日 (水) 10 : 00 ~ 16 : 30  
(4) 場所 県庁本館 301 会議室, 県庁講堂  
(5) 参加者 36 名  
(6) 研修概要

ア 講義・活動体験

「活動プログラム作成のヒント」

講師：広島県立生涯学習センター 主査 岡澤 秀之



活動プログラムを作成し実施する際の基本的なことを確認した後、いろいろなゲームを、その意味を踏まえながら体験していきました。参加者は子どもに戻ったかのように盛り上がりました。参加者自身が楽しみながら学べたことで、すぐにでも教室の活動に活かせる内容となりました。



イ 情報交換・意見交流



コーディネーター、市町教室担当者、その他の教室スタッフの職種ごとのグループとなり、情報交換・意見交流を行いました。活発な話し合いになり、内容も職種ごとに特徴がありました。悩みなどを共有しアドバイスをしようことを通して、今後の活動の参考となる話し合いになりました。

## ウ ポスターセッション



「ワクワク学び隊」の活動内容について、学生から説明を聞きました。参加者は学生にいろいろ質問したりして、それぞれのチームの活動を詳しく知ろうとしていました。「ワクワク学び隊」をより深く知ることができ、今後の教室の活動の充実につながる内容となりました。

## エ 講義・意見交流会

「子どもの学びを支えるための大学生の役割」

講師：広島経済大学 准教授 志々田 まなみ



子どもの年齢に近い学生ならではの役割について学びました

学生の「ワクワク学び隊」としてのやりがいや、これまでに困ったことなどを交流しました。学生の生の声を聞くことができ、今後の教室の活動に「ワクワク学び隊」を活用したいという思いが強くなる内容となりました。

## オ 受講者アンケートより

- いろいろなゲームが体験できてよかったです。子どもたちとやってみたいと思います。
- いろいろな地域の活動の様子が分かり、今後の指導に役立ちました。
- 「ワクワク学び隊」にはバリエーションがあり、今後の事業展開に役立ちます。ワンパターンにならず、いろいろ来てもらえるようにしたいです。

## 放課後の居場所が **ホッ** とする場となるための 10 ポイント

### 1 笑顔であいさつ

笑顔で「おかえり」「こんにちは」「さようなら」。指導者自身が笑顔でいられるよう、心と体の健康に気をつけましょう！

### 2 一人一人の子どもを尊重する

どの子にも忘れずに声かけするよう心がけましょう。集団に入りにくい子へは、特に、配慮が必要です。

### 3 子どもの話をじっくり聞く

子どもの話は、目と目を合わせてじっくりと聞けるといいですね。そのためには、話を聞く指導者の心の余裕が大切です。

### 4 子ども同士のトラブルを見逃さないこと

子どもの様子を見守りましょう。トラブルになった場合は、言い分をよく聴きながら、解決して帰宅できるよう心がけましょう。家庭への連絡も忘れずに。

### 5 子どもの様子をよく見る

何かあった時、子どもの顔を見れば、大体はわかります。学校とも連携し、子どもの情報を共有することも大切です。

### 6 心地よい環境づくりに努める

清潔で、整頓された部屋は、安全への第一歩です！

目的別（例：学習、遊び、読書 e t c）のスペースは、心地よく過ごしやすい場所となるでしょう。

### 7 必要な一定のルールを設ける

放課後の場は、集団の場であり、ルールが必要です。ルールを作ったら、子どもも自らが、守ろうとする工夫も必要です。

### 8 タイムスケジュールがある

活動に見通しを持てることで、子どもは、落ち着いて過ごすことができます。

### 9 創意工夫できる遊びの場であること

子どもの主体性が発揮できる場でありたいですね。時には、季節の行事やワクワクするようなイベントがあると、子どもたちは喜びます。その時には、指導者も一緒にあって、子どもと楽しさを共感しましょう。

### 10 子ども・保護者・指導者の信頼関係のトライアングル

日頃から保護者と連携し、信頼関係を築きましょう。また、指導者同士のコミュニケーションもしっかりととりましょう。

その他にもいろいろ、おやつも楽しみのひとつ。。



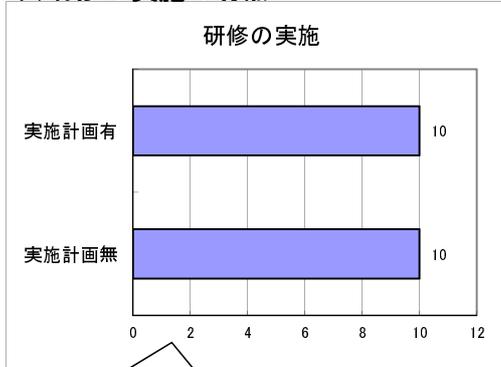
この10ポイントは、県立広島大学西村いづみ講師の講義・演習「居場所とは～育ちゆく子どもたちにとっての意味」において参加者の皆さんから出た意見を集約し、作成させていただきました。

放課後子どもプランに係る市町における研修についてのアンケート調査結果【放課後子ども教室】

平成24年9月27日集計

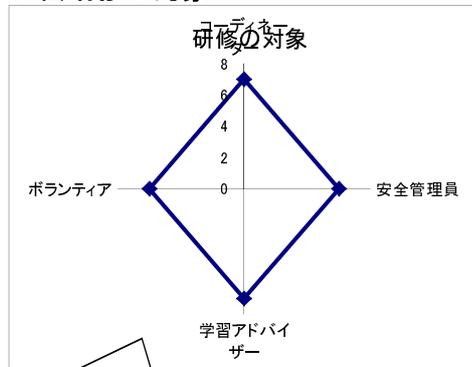
1 市町における指導者等の研修について(廿日市市、福山市を含む。)

1-(1)研修の実施の有無



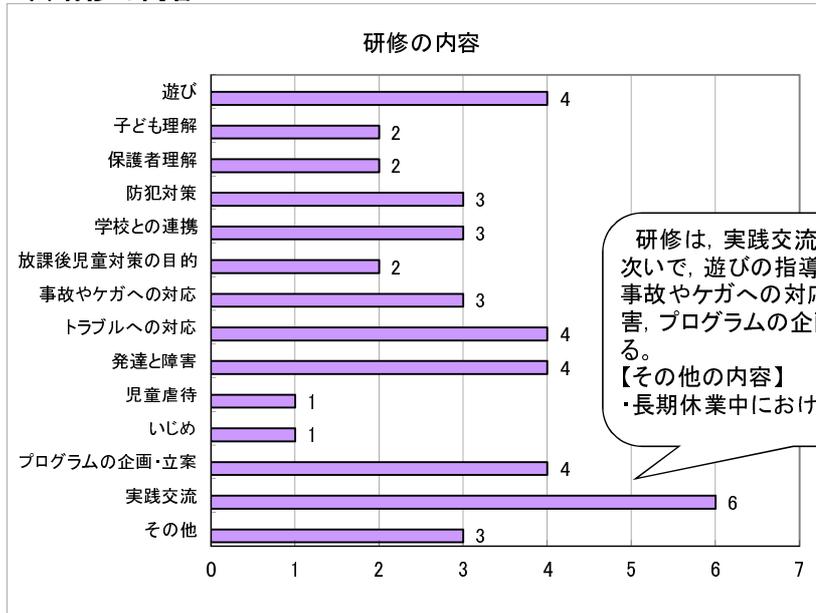
半数の市町において、研修を実施。学期に1回または、月1回のように、定期的に行っている市町もある。

1-(2)研修の対象



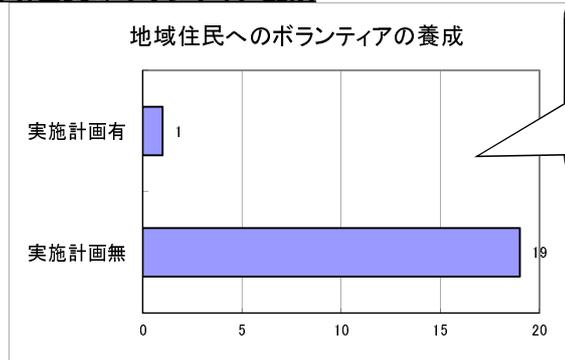
ボランティアを含め、関係者に幅広く研修を実施。市町で開催されている講座も研修の機会として活用。定期的に交流・報告会を実施している市町があり、研修の機会として活用。クラブ指導員との合同研修を行っている町もある。

1-(3)研修の内容



研修は、実践交流が多い。次いで、遊びの指導、トラブルへの対応、事故やケガへの対応、子どもの発達と障害、プログラムの企画・立案が多くなっている。  
【その他の内容】  
・長期休業中における宿題対策

2 地域住民のボランティア養成

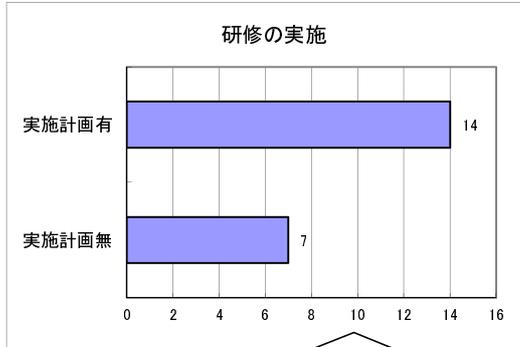


※「実施有」と回答があった町の研修内容対象：公民館定期使用団体等の方々（将来的に放課後子ども教室にも関わってもらいたいの方々）  
内容：『親の力』をまなびあう学習プログラム講座による子どもへの接し方につ

放課後子どもプランに係る市町における研修についてのアンケート調査結果【放課後児童クラブ】  
平成24年9月27日 集計

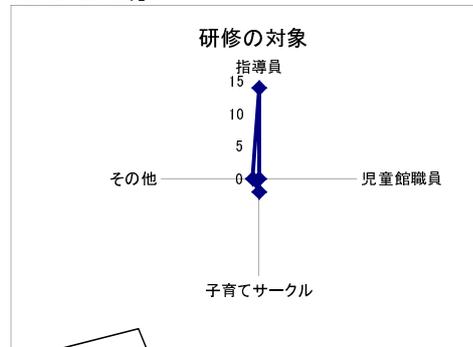
1 市町における指導者等の研修について

1-(1)研修の実施の有無



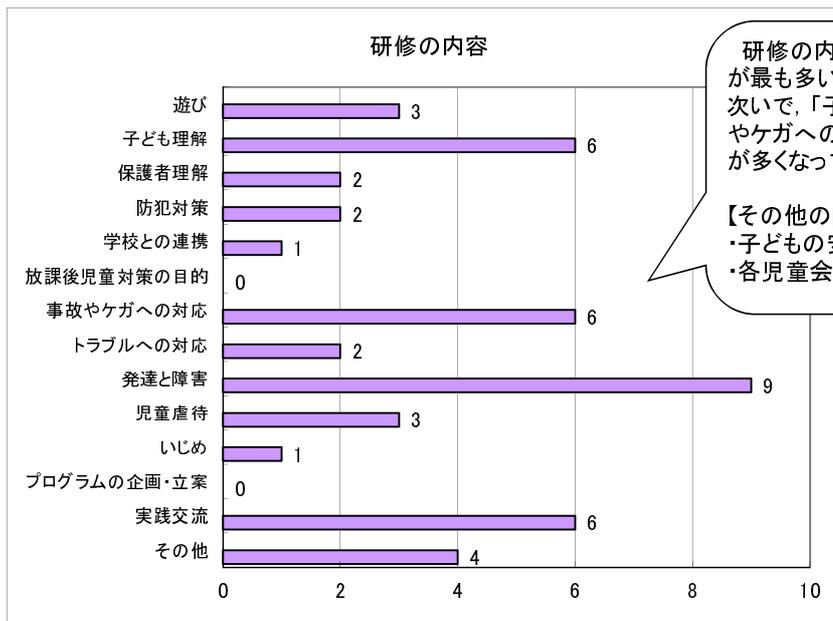
全体の3分の2の市町において、研修を実施。回数(市町数)は、1回(4)、2回(2)、3回(1)、4回以上(7)であり、最多は17回である。

1-(2)研修の対象



ほとんどの実施市町において、放課後児童クラブ指導員を研修の受講対象者としている。「その他」は、保育士である。

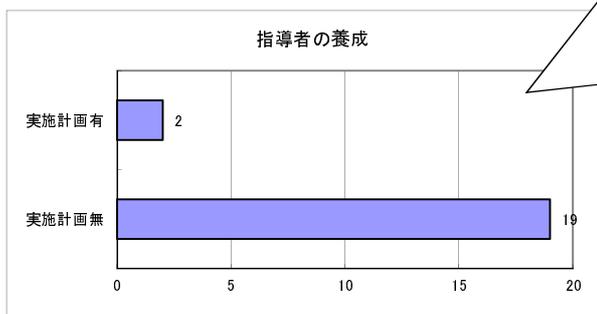
1-(3)研修の内容



研修の内容は、「発達と障害」が最も多い。次いで、「子どもの理解」や「事故やケガへの対応」、「実践交流」が多くなっている。

【その他の内容(未定分除く)】  
・子どもの安全対策(震災)  
・各児童会ごとの防災訓練のマ

2 指導者の養成



実施されている講座の内容  
【子育て支援連続講座】  
・子育て支援のあり方を楽しく考える  
・発達段階に応じた支援のあり方や遊びについて考える  
・発達障害を正しく理解し、サポートの仕方について考える  
・ファシリテーターを介したワークショップ  
【子育てサポーター養成講座】  
・子育てに活かす知恵  
・救命救急講習  
・サポーター精神について  
・子育てボランティアの「笑笑コミュニケーション」